

はくぶつかんネット

第54号

平成27年10月~1月号
宜野湾市立博物館発行



企画展、無事終了しました！

さわやかな秋風が吹く季節になってきましたが、皆さまはいかがお過ごしでしょうか。

当館では、7月15日（水）から9月6日（日）まで、沖縄戦・戦後70年企画展「宜野湾、戦後の復興とくらし」を開催し、1,600名以上のお客様にご来場していただきました。

企画展では、戦後の宜野湾の復興の様子や、生活の様子などを写真パネルや実物資料で紹介しました。また当時の子ども達が運んでいた水の重さを体験するコーナーや、当時、使用されていた鐘を鳴らす体験コーナーを設置したところ、ご来場されたお客様ほとんどの方が体験されていました。さらに宜野湾市の戦前と戦後の地図をフロアマットとして紹介したところ、多くの方々が熱心に見比べていました。

企画展をご見学されたお客様、貴重な資料をご提供くださいました皆様のおかげで無事、企画展を終了することができました。誠にありがとうございました！次回も皆様に喜んでもらえるような、企画展を開催していきます！

ご来場ありがとうございます！



展示資料



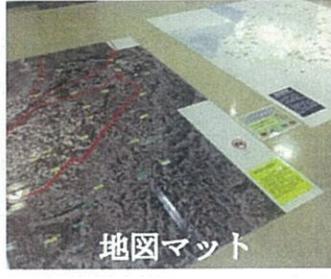
農作業の道具等



パイプラインの標識



ジエラルミンを使った道具等



地図マット

体験コーナーをチェック！



【警鐘】当時は治安が悪く、宜野湾村にも米軍部隊が駐屯していたため、外人兵による事件が跡を絶ちませんでした。その中でも、女性目当てで字に侵入する米兵やフィリピン兵が多くありました。字により使い方は異なりますが、多くは危険を知らせる鐘としてポンペを叩き、地域住民に合図を送っていました。危険を知らせる合図は強く連打する等目的に応じて、回数や間隔を変え、音を出す工夫をしていました。企画展内では、ハンマーではなく棒を使用しました。

実際は、音を遠くまで響かせるためにハンマーを使用していましたよ！



【水汲み】人々の生活になくてはならなかった水をかつては、子どもたちが主に学校へ行く前の仕事として、飲み水や生活用水を湧き水や井戸へ汲みに行っていました。水の量は当時の入れ物によって異なりますが、水はとても重いです。体が小さく、力が弱い子ども達には辛い仕事でした。企画展内では、およその水の量として片方に 8.5 リットル (8.5 キログラム) の水を 2 つ用意しました。両方で 17 リットル (17 キログラム) の重さになります。実際子どもの頃に体験されていたお客様は、当時の事を懐かしみながら軽快に担いでいました。しかし、初めて体験される方は、大人の方でも担いで歩き回ることが難しいとのご感想が多かったです。



見学された皆さまの声～アンケートより～

とてもいい企画だと思った。自分が住んでいる地域が 70 年前はどういう場所だったのか、当時の写真や地図などを見て勉強になった。もっと沖縄戦について知りたいと思った。



小学生の娘も食い入るように見ていた。貴重な展示物や写真でとても良い経験ができた。

70 年前にタイムスリップした感じ。沖縄の方の苦労は計り知れない。戦争で亡くなった人々に、天国で会えるなら企画展を見せてあげたい。

アンケートの一部を紹介しましたが、その他の中でも、好評な意見が多かったです。たくさんのご意見、ご感想をありがとうございました。



企画展「新収蔵品展～平成 25・26 年度受入資料～」

■開催期間：10月31日（土）～12月20日（日） ■休館日：火曜日・11/23（勤労感謝の日）

■時間：9時～17時（入館は 16 時 30 分まで） ■入館料：無料

地域の皆さんから寄贈・寄託して頂いた資料を展示します！ぜひご鑑賞ください！

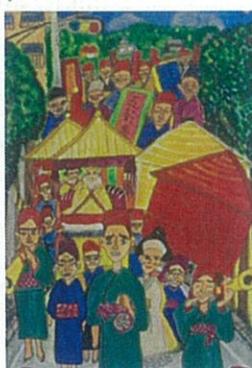
第24回ぎのわんの文化財图画作品展

9月30日(水)から10月18日(日)まで、“ぎのわんの文化財图画作品展”を開催しました！これは、市内在住の小学3年生から中学3年生の子どもたちに、ぎのわんの文化財や風景、風俗を題材とした图画の制作を通して、自分たちの暮らす市の歴史、文化への关心を深め、実際に見て・感じて・知ってもらうことを目的としています。

森の川や普天満宮など、宜野湾市の文化財を描いた作品がずらりと並び、ご来館されたお客様の目を楽しませっていました。今年度は193点の出品があり、鮮やかな色彩の作品や、細部まで観察して丁寧に描き込まれた作品が多く、画材にも工夫が見られ、中にはクレヨンや色鉛筆を効果的に使った作品や、色紙を用いてのちぎり絵で表現した作品もありました。そのどれもが個性豊かな素晴らしいものばかりで、子どもたちが楽しんで描いたことが作品から感じ取れました。

10月3日(土)には、小学校中学年(小学3・4年生)の部、小学校高学年(小学5・6年生)の部、中学生(中学1～3年生)の部の、それぞれの部門ごとに選出した入賞作品の表彰式が行われました。

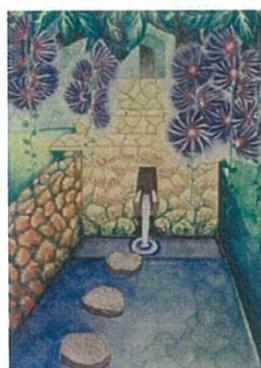
教育長賞



小学校中学年の部
なかち
仲地
きらら
輝
(普天間小学校3年)



小学校高学年の部
かわばた
川畑
わっこ
和瑚
(大山小学校5年)



中学生の部
みやぎ
宮城
ももな
桃奈
(真志喜中学校3年)

Congratulations!

～表彰式～





◆地域探訪～大謝名編～

第2回 道の今昔と獅子舞

沖縄戦後、大謝名は、1950～60年代の米人住宅建設の際に多くの文化財などが失われてしまいました。けれども、大謝名の昔からの道は、ほぼ、そのまま残って現在の道になっています。

戦前の道を現在と
照らし合わせてみました。



戦前の大謝名 1945(昭和20)年頃

写真の左右に白く見えるウフミチ(旧県道)やソンドウ、左端中央から軽便鉄道の線路が見える。ソンドウを挟んで黒く見えるのが集落、右寄り黒い固まりはイヌヤマ。



現在の大謝名市場通り

大謝名市場通り

戦後栄えた所で、マチヤグワー(雑貨店)、魚屋、肉屋、天ぷら屋、洋服屋、靴屋、化粧品店、料亭、大謝名劇場などが立ち並んでいた時期があり、おしゃれ用品もすべて揃えられたといいます。現在、マチヤグワーが1件残っており、後は居酒屋が立ち並んでいます。



キシャミチ

牧港～大謝名間を走る軽便鉄道(左写真 右下)

沖縄軽便鉄道嘉手納線(那覇～嘉手納)が1922(大正11)年に開通し、宜野湾には大謝名・真志喜・大山の3カ所に駅がありました。大謝名駅周辺は田んぼが広がり田園風景が美しかったそうです。右は現在のキシャミチ跡(マチナトボウルのある通り)です。



宜野湾市立博物館

現在の国道58号

沖縄最大の街道で那覇から国頭まで続いていました。

ウフミチ



現在の県道34号線(宜野湾西原線)

終戦直後は米軍のトラックが作業員をたくさん乗せて走っていたそうです。戦後、道幅が拡張されました。交通量の多い坂道です。

大謝名 1958(昭和33)年頃の道標
軍用道路1号線(現国道58号)

付近に米人商社・米人住宅などがあり、外人相手の商売が繁盛しました。



道を行き交う時、ここで水を飲んだよ。

フルミチ

トーバンタミチ
大謝名と真志喜
結んでいました。

今のパイプライン通りは
この辺にあたります。



4丁目はイヌヤマ(拝所)があった小高い山が崩されて建てられた米人住宅が立ち並んでいます。

クガンナー

獅子舞については次のページにあるよ!



◆大謝名の獅子舞 市指定無形民俗文化財

毎年、旧暦8月15日の豊年祭の日に行なわれる獅子舞は、大謝名区で最大の行事です。獅子舞をすることを「シーシ・ケーラシ」といい、ムラの厄を払い、健康・安全をもたらすといわれています。当日は、祭りが始まる前に獅子舞保存会と自治会の役員がムラの拝所への拝みを行ない、獅子舞と一緒に集落内の道をまわります。

大謝名の獅子舞は「けんか獅子」・「イキガ(男)獅子」とも呼ばれています。踊りはシンプルであり細かい技はありませんが、舞台の上を堂々とまわりながら四方と中央で囁みつき、勇ましく舞います。

大謝名では約200年前から始まったと伝えられ、戦前は旧盆の時期にも行なわれていました。沖縄戦によって焼失してしまい、戦後、一度は途絶えてしましましたが、1976(昭和51)年に復活させて、それからは年に1回行なわれています。



▲2015年9月 豊年祭にて



←パクパクッ！…動きが激しいので写真を撮るとブレてしまいます。((-_-))



豊年祭が始まると、小さな子どもからお年寄りまで、たくさんの方々が見物に訪れて賑わいを見せています。今年は獅子舞の前に演じられる棒術(1976年に追加された)やメカタに10代の若い世代も参加していました。当博物館でも市民講座「大謝名獅子舞見学ツアー」を実施し、市民の皆様と一緒に見に行きました。



会場の屋台で買った焼き鳥を食べながら楽しむ人もたくさんいましたよ♪



今回は大謝名の道と獅子舞についてご案内しました。道は変わらなくても鉄道がなくなり、車社会となって道幅が広がり、さらに新しい道ができるなど、生活の有り様がずいぶん変化していると感じられます。また、獅子舞の見学は、祭りの雰囲気を楽しみながら宜野湾市の伝統にふれるいい機会となりました。内容に関する詳しいことは、『宜野湾市史』第5巻民俗編、『ぎのわんの西海岸』、『ぎのわんの文化財』等に記載されていますので、興味のある方はぜひちらもご覧になってみてはいかがでしょうか。

次回は、大謝名の名所についてご案内します。

博物館実習・教職10年目研修

今年度も、博物館実習生や教職10年目研修の先生の受け入れを行いました！皆さん、最初は少し緊張していた様子でしたが、次第にそれも解けてきて、とても熱心に取り組んでいました。団体見学のお客様への対応や展示資料からテーマを設定しての調査研究・発表など、実際の業務体験を通して、博物館のしくみや学芸員の仕事への理解がよりいっそう深まったようなので、今回の実習・研修で学んだことをぜひ今後に生かしてもらいたいと思います。一人ずつ感想をいただきましたので、ご紹介します。

学芸員実習



★ 調査研究にとても苦労しました。発表日から逆算して物事を進めていく能力が大事だと感じました。わらば～体験じゅくで宜野湾市の子どもたちとふれ合えたことは、とても良い思い出になりました。

琉球大学 照屋 大哲さん



★ 12日間という短い時間でしたが、企画書作成など細かい作業から市民講座やわらば～体験じゅく等の大きなイベントまであり、とても濃い実習期間でした。どんな作業であっても、事前にどうするかを考えることが重要であると学ぶことができました。

琉球大学 西前津 光さん



★ 12日間という期間は、意外と短く、もうちょっとあっても良かったと思います。この期間中、市民講座やわらば～体験じゅくなどで様々な人たちとふれ合えたのは、人間的に成長できる大きな要素となつたと思います。色々と教えて下さった職員の皆様に感謝したいです。

琉球大学 福地 賢祐さん



教職10年目研修

2日間という短い期間ではありました、宜野湾市立博物館での研修は、大変貴重な経験になりました。研修を通して感じたことは、職員の方々が日々、市民の皆様に「歴史、文化、自然を伝えたい」という熱い思いから、子どもから大人までが体験的な活動を通して学べるように、様々な企画展や講演会・野外見学会を開催していることを知りました。

また、「学校現場と地域団体との文化活動の拠点」となる市民参加型の博物館を目指しているということで、学校がどのように博物館と連携をして、どのように活用することができるのかを考えるいい機会となりました。

博物館で研修したことを今後の教育活動に生かし、子どもたちのために日々、一生懸命に頑張っていこうと思います。博物館の職員の皆様、ありがとうございました。



宜野湾市立普天間第二小学校 屋富祖 正人先生

その他、宜野湾中学校と真志喜中学校から職場体験実習生を4名、沖縄国際大学からインターンシップ生を3名、受け入れました♪



団体見学、社会科見学、出前講座のご案内



当博物館では団体見学の受け入れを行っており、デイサービスや学童クラブなど、市内外を問わず、さまざまな年代の団体のお客様にご見学いただいております。

出前講座での体験学習の様子です。



見て、触れて、楽しんで学べるようになっています。



土器パズルは、子どもたちに大人気のコーナーです。



古民家の展示は、デイサービスや老人クラブのお客様から「懐かしい」とご好評いただいております。

●「展示解説」は予約が必要となります。解説を希望される場合は、見学希望日の2週間前までに博物館へご連絡ください。

●学校の社会科見学の際には、展示室の解説に加えて、博物館職員の指導のもと「昔の道具」を使用した体験学習も行っています。また、宜野湾市内の学校のみ対象で、博物館への移動手段が確保できない場合、博物館職員が学校の方へ出向いて講座を行う「出前講座」も実施しております。学校の社会科見学や出前講座の場合は、事前の打ち合わせが必要となりますので、1か月前までにはお問合せくださいますよう、よろしくお願ひいたします。

NEWS!

博物館の新しい仲間を紹介するよ☆



博物館の仲間に、リュウキュウヤマガメの「亀千代（カミジュー）」が加わりました♪

リュウキュウヤマガメは日本でも沖縄にしか生息しない珍しいカメで、国の天然記念物もあります。まだ新しい環境やたくさん的人に慣れていないようなので、お客様へお見せできるのはしばらく後になりますですが、いつかは皆様にもご覧いただけるといいな、と思っております。

さらに、もう1匹新たな仲間として、タウナギも加わりました！



今回新たに加わったタウナギは、以前から飼育しているオオウナギの「うなびー」と比べると、体は小さいですが好奇心旺盛な印象です♪ 沖縄のタウナギは、独自の進化を遂げた固有の種であるとされています。こちらは既に水槽への移し替えを終えましたので、博物館へお越しの際には、ぜひご覧ください。



Information

■入館料：無料

■開館時間：午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）

■休館日：毎週火曜日、祝祭日、年末年始（文化の日、慰霊の日は開館します）

※火曜日と祝祭日が重なった場合、翌日の水曜日も休館になります。

宜野湾市立博物館

〒901-2224 宜野湾市真志喜1-25-1

TEL (098) 870-9317 FAX (098) 870-9316

